

# 佑 啓

ゆ う け い

発 行 者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

## つばさをよろしく

岩崎 孝夫

はじめまして、私たちの八千代市福祉作業所(通所：つばさ)は、今年の四月から佑啓会の運営になりました。これまでの三十一年間は、NPO法人「八千代市手をつなぐ親の会」が運営して来ましたが、昨年の指定管理者の選考において佑啓会に交代となりました。ある程度予想はしていたものの、いざ決定となると、やはりその混乱振りには相当なものでした。利用者の生活はどうなってしまうのだらう。作業の仕方は変わってしまうのだらうか、職員は継続雇用してもらえらるのだらうか等々、職員も家族も先が見えずに不安を募らせていました。特に職員の動揺は激しく、モチベーションも著しく低下していました。

「案ずるより産むが易し」と言



うことわざがありますが、正にそのとおりで、運営移譲は実にスムーズでした。福祉作業所の生活・作業等は従来のまま継続となりまし、希望する職員は全員継続雇用するという胸襟を開く姿勢には驚かされました。これには本当に助かりました。何故ならば八千代市手をつなぐ親の会は、福祉作業所の他に事業は展開していませんでしたので、職員は退職する道しかなかった訳です。職を無くし路頭に迷う所でした。これにより職員十八名のうち希望しなかった一名を除いた十七名が佑啓会に仲間入りさせていただきました。まさに感謝の一言に尽きます。運営が代わってから福祉作業所の生活環境は見違える程良くなりました。それは利用者を大事にすると言う考え方に立ち、修繕や環境整備を徹底したからです。部屋の床はポリッシュヤーで磨き、くすんだ外壁は高圧洗浄機で汚れを落としました。経年劣化として放置すると言う都合の良い言い訳は通しないものでした。そんな中でも、特に力を入れて

いるのが施設の脱臭です。理事長はトイレの臭いがする施設は職員の怠慢であると言います。私はどこの施設でも利用者の服薬により通常以上の臭いが染み付くものと当たり前に考えていました。恥ずかしい限りです。実際にふる里学舎は、市原も和田浦も、この事業所も臭いのない状態を保っていました。そういう訳で、それから毎日トイレ掃除に力を入れて脱臭に心がけました。



戸惑う事もたくさんあります。これまでは八千代市内だけの活動でしたが、東京や千葉県内各地にたくさんさんの事業所があり、範囲は一気に拡大しました。そして、その事業所がそれぞれ切磋琢磨しながら競っているのですからすごい活気です。とにかく規模が違い過ぎて戸惑うばかりです。正直なところ、法人規模が大きくなるとデメリットも出てくるのではと取り越し苦労をしましたが、これは理事長の一言でスッキリしました。「八千代の作業所は八千代の職員がしっかりと守って、地域で認められる仕事をして行く事、責任を持つてきちんと運営してもらえれば、法人は大きくなっても何の問題もない」と。ですから職員は本当に生き生きと仕事をさせてもらっています。



法人の組織がしっかりと確立していて、それぞれが肩書きで呼び合うのにも戸惑います。これまでそのような呼び方をした事がなかったものですから、面映い気になります。そして職員も四百名もいると知って驚いています。まさに井の中の蛙が大海に出たと言う感じで、カルチャーショックです。また、佑啓会はプロの集団である事を実感します。それは利用者の安全対策や環境整備には経費を惜しまないと言う姿勢にもあります。私たちは今まで限られた予算の中で汲々としてきましたので、その潔さは爽快です。本当に利用者は大事にされていると実感します。同様に職員も大事に守られているのがわかります。理事長は二言目には、「職員が宝だ」と言ってくれています。将来を担う職員を大事に育て、大切に思い、事ある時には、組織として全力で守る体制が出来ています。佑啓会の職員はつくづく幸せだと思いました。研修もたくさん受けさせてもらっています。これまでは職場が手薄になると言う理由で平日の研修が制限されていましたが、利用者支援に影響が出ない形で、平日の研修にも参加できるようにになりました。職員は障害福祉を志し、この仕事において自己実現を目指し



ています。特に真面目な職員ほど常に自分の支援を振り返り、確認を必要としますので研修が増えた事は大変良い事だと思っています。研修の特徴は「接遇」を大事にしていることです。挨拶の仕方から始まり、お客様へのお茶の出し方、立ち居振る舞いなど徹底しています。私は、自分の事を常識的な行動がとれる人間と思っていましたが、ほとんどない間違いで赤面です。接遇研修を受けて見て「目から鱗」と言う事がいかに多いかを知らされました。そして何と言っても感嘆すべきは、いろいろな事業を展開して利用者のライフステージに対応している事です。通所・入所・グループホーム・ヘルパー事業所・身体障害者の施設まであります。利用者のニーズや高齢化に対しても法人内で自己完結できる程の展開をしている事、更には、各種相談事業を先駆的にやっている他、市原市の障害者スポーツ大会の運営企画等、地域にも目を向けた事業を行っており驚くことばかりです。先日会議において理事長は、身寄りのない利用者やその他の方でも希望する人には、墓地を用意するつもりで計画している旨の発言があり、またまた驚きです。生活すべてにおいて最後まで面倒を見ようという事で。考え方も発想もスケール

が違います。あのデイズニールが違います。あのデイズニールに、常には自分の支援を振り返り、確認を必要とします。研修が増えた事は大変良い事だと思っています。研修の特徴は「接遇」を大事にしていることです。挨拶の仕方から始まり、お客様へのお茶の出し方、立ち居振る舞いなど徹底しています。私は、自分の事を常識的な行動がとれる人間と思っていましたが、ほとんどない間違いで赤面です。接遇研修を受けて見て「目から鱗」と言う事がいかに多いかを知らされました。そして何と言っても感嘆すべきは、いろいろな事業を展開して利用者のライフステージに対応している事です。通所・入所・グループホーム・ヘルパー事業所・身体障害者の施設まであります。利用者のニーズや高齢化に対しても法人内で自己完結できる程の展開をしている事、更には、各種相談事業を先駆的にやっている他、市原市の障害者スポーツ大会の運営企画等、地域にも目を向けた事業を行っており驚くことばかりです。先日会議において理事長は、身寄りのない利用者やその他の方でも希望する人には、墓地を用意するつもりで計画している旨の発言があり、またまた驚きです。生活すべてにおいて最後まで面倒を見ようという事で。考え方も発想もスケール



最後になりますが、長年八千代市福祉作業所の利用者と職員を支えて下さった「八千代市手をつなぐ親の会」には感謝の気持ちでいっぱいです。先達が苦労されて立ち上げた「八千代市福祉作業所」に引き継ぎ携われた事は何かのご縁で本当にうれしく思っております。これからもしっかりと守って行きます。それが私たちの役割で宿命だと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしく願います。(八千代市福祉作業所 施設長)

# 家族会一泊研修会

松田 豊子



東関道を下り、佐倉の市街地に向かつて行くところまで「福祉タウン」と思わせる光景が広がっていました。町を通り抜け今回は、社会福祉法人・千手会のさくら千手園(生活介護、施設入所)を見学させて頂きました。昭和六十二年開園、とても歴史のある施設でした。

ふる里学舎からは保護者、職員、総勢百二十名の参加です。見学の際、しきりに千手園さんから古いのでと言われましたが、保護者の一人として精一杯気持ち良く迎えて下さった事、気持ちの良い挨拶等、好感度の高いものでした。

現在千手園では、さくら千手園を含め六ヶ所の事業所があり更に昨年度は「地域密着型特別養護老人ホーム・さくら福寿苑」を開設されていきました。福寿苑は佐倉市民限定だそうです。歴史感のある千手園さん、そして新ビカの福寿苑さん、どちらも基本理念となっている「個人の尊厳を守り、自立した生活を支援する」という目的通りスタッフの寄り添っていらつしやるお姿を拝見しまして心温まる思いでした。さてバスは宿泊先へと。

今回のホテル「白砂」は庭園の美しい所でした。役員の皆様はすぐに役員会とご苦勞様で申し訳無いですと思いつつ、離れの露天風呂が夜は男性専用になると聞いてすつ飛んで行きました。私ももう一人、二名だけの贅沢なお風呂でした。夕食の前に里見理事長の講話があり、佑啓会として幅広く事業展開しています。法人の理念は変わりませんので、どうぞ心配され無いう様にというお話でした。



自分の子どもの事だけでなく社会全体を捉えて理解して欲しいと望んでおられました。私は千倉に開所される福祉型障害児入所施設にとっても心強い思いがあります。全ての子ども達が大切にされる世の中であってほしいと願ってやみません。理事長が袖ヶ浦の事件に触れ、事業団の一部の施設を佑啓会が運営することになったとの事。佑啓会が掲げている利用者を真ん中に!! 私達の息子と同じ様に幸せな生活が送れます様に切に願っています。

若い先生にはお会いするといつもすごいなあと思っています。私が若い頃、福祉という仕事を選ぶ考えが無かったからです。佑啓会の先生方、心より感謝申し上げます。夕食と二次会は先生方と深い交流ができ本当に楽しい時間でした。研修会は大変バス二台での移動

私は須藤支援員率いる二号車でした。須藤支援員のパンの営業トイクは素晴らしいです。バスがいよいよ市原に着く頃「皆様お疲れ様でした。しつこい様ですが学舎でパンの販売をしております。今日三時のおやつにまたお夜食にそして明日の朝食にどうぞご家族人数分をお買い求め頂ければ幸いです。これには拍手喝采、最後まで笑いの絶えない十月十六日・十七日の一泊研修会が終了しました。お世話になりました。ありがとうございます。

(ふる里学舎 和田浦 保護者)

## 『杜のホール バレーボール部』

林 博樹

暗闇に浮かび上がる窓明かり。夜な夜な森に響き渡るイルカの鳴き声にも似た「キュッキュ」という音。そこはふる里学舎杜のホール。音の正体はバレーシューズが真新しい体育館の床をこする音です。今年から我らふる里学舎バレーボール部の練習拠点であります。

今年若者に担がれてバレー部キャプテンを務めさせて頂きました。別にキャプテンは偉いわけでもなく、練習の調整や「決起集会」「祝勝会」という、言ってみれば宴会のセッティングなど雑務ばかりです。私自身、ふる里学舎に入職してからバレーボールに出会い、十九年目になります。若かりし頃は、勢いに任せて飛び跳ねて(自分のイメージですが)いたのも今は昔。すっかりオジサンの体力とジャンプ力になってしま

い、練習の後には、キッチン中日でやってくる筋肉痛にやられました。他の施設の方からは「林さん、まだやってくるの。好きだねえ。」と激励?のお言葉を頂戴するまでになりました。自分としても、体力的にしんどくなってきたので、ぼちぼち身を引いて若者に任せたいのはヤマヤマですが、私の上にはまだ二人ばかり、上司がいまです。そんな事はなかなか口には出せません。

毎年十一月に開催される千葉ボートアリーナでの千葉県知的障害者福祉協会施設職員交流バレーボール大会県決勝大会での優勝を目指し、練習に励んでいます。しかし普段は事業所も離れており、変則勤務もありますのでなかなか練習に人が集まりません。そこで大会が近くなると「この日!」と決めて、全員で集まるような全体練習を設けて、集中的に練習をしています。(お察しのとおり、その夜は大体が決起集会です)



今年杜のホールが出来たことで、研修などで会う他施設の職員さんからはさぞ練習をして強くなっているに違いないといったプレッシャーを掛けられ、そして何より理事長が頻りに練習に顔を出してくることで更にプレッシャーが掛かるのです。未だかつてこれほどまでに審判台の上から降ってくる理事長の叱咤激励を聴いたことがあったでしょうか。こうして森

の夜は更けていくのです。今年の佑啓会は、ふる里学舎(千葉地区)ふる里学舎松香園(東葛地区)が地区予選を突破し決勝大会(十六チーム参加)に進みました。両チームとも、杜のホールの練習の成果を発揮しましたが、双方奇しくも二回戦でフルセットの末、敗れてしまいました。残念な結果となり、その夜は予定していた祝勝会も慰労会に名を替え、結局はいつもの大宴会になりました。慰労会には、バレー部以外にも、各事業所の職員が大勢集まってくれます。いつも快くバレー部員を練習や試合に送り出してくれる職場のチームメイトには本当に感謝しています。



酒も進み血気盛んな若者部員からは「今までのような練習をしていたら勝てないですよ。」とか「オフ(シーズン)も練習した方がいいですよ」等、早くも来年に向かって前向きな話が。さてキャプテンとしてどうしていくかと思案していたところ、慰労会の終わり際に三股常務から「杜のホールがあるじゃないか! 夜も開いてるぞ!」とのありがたいう言葉が頂戴しました。血気盛んなのは若者だけではなくたようです。この年齢、役職、働く場所それぞれ違えども、温度差のないところがバレー部だけでなく佑啓会の強みだと改めて実感した次第です。

とはいえ年末、年度末、そして来年の新規事業に向けて、慌ただしくなっています。バレーなんてやってくる暇は:と言いがらま、きつとやっちゃうんだろなとも感じています。幼いころに言われた「よく遊びよく学べ」も大人になつたら「よく遊びよく働け」。忙しい時ほど、ひと時杜のホールに叩きつけるのだ! 仕事もバレーも目標に向かって、個々の力を結集してチーム(組織)として機能していく。そして応援してくれる人たちに夢を与える。そんなバレー部であって佑啓会でありたいと思っています。



早いもので、慌ただしかった今年も残り一カ月になりました。しかし、十二月もクリスマスに年賀状や年越しの準備等: まだまだやらなくてはいいけないことが多いですね。寒さも一段と厳しくなってきました。どうぞご自愛ください。和田浦より、佑啓九十四号をお届け致します。

高栗 博